

令和7年度秋期

応用情報技術者試験分析と講評

■試験全体について

応用情報技術者試験は、対象者像を「ITを活用したサービス、製品、システム及びソフトウェアを作る人材に必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」とする試験で、受験者の多くは高度IT人材像の前段階にある人です。名称には“情報技術者”が含まれますが、情報システムの開発に従事している情報技術者だけではなく、経営や企画などの業務を通して情報システムとの関わりをもつ人も含めた、幅広い人材を対象とした試験です。

平成21年度からスタートし、今回で33回目の試験実施になります。試験スタート当初は、60,000人台の応募者数が続いていましたが、徐々に減少し、平成28年度春期には44,102人にまで減りました。しかし、その後、少しづつ応募者数は回復し、令和6年度は春期が55,569人、秋期が65,667人、令和7年度は春期が58,206人、秋期が66,835人と、試験スタート当初の水準に戻っています。一方、合格率については、この試験が開始されて以来ほぼ20%台前半で推移してきました。その間、令和4年度秋期の26.2%，令和5年度春期の27.2%，令和6年度秋期の28.5%とやや高いこともありましたが、令和7年度春期は22.1%，令和7年度秋期は24.5%と平均的な水準に戻っています。

直近10回の応募者数、受験者数、合格者数の推移は、次のとおりです。

年度	応募者数	受験者数(受験率)	合格者数(合格率)
令和3年度春	41,415	26,185(63.2%)	6,287(24.0%)
令和3年度秋	48,270	33,513(69.4%)	7,719(23.0%)
令和4年度春	49,171	32,189(65.5%)	7,827(24.3%)
令和4年度秋	54,673	36,329(66.4%)	9,516(26.2%)
令和5年度春	49,498	32,340(65.3%)	8,805(27.2%)
令和5年度秋	56,073	37,763(67.3%)	8,753(23.2%)
令和6年度春	55,569	36,730(66.1%)	8,677(23.6%)
令和6年度秋	65,667	44,243(67.4%)	12,613(28.5%)
令和7年度春	58,206	38,663(66.4%)	8,527(22.1%)
令和7年度秋	66,835	44,005(65.8%)	10,792(24.5%)

午前試験には、四肢択一の問題が80問出題されますが、出題範囲の各分野からの出題数は、テクノロジ系50問、マネジメント系10問、ストラテジ系20問が標準になっています。また、各中分類からほぼ均等に出題されることが基本ですが、出題が強化されている情報セキュリティ分野の問題は例年どおり10問出題されました。

分野	大分類	R7秋	分野別出題数	R7春
テクノロジ系	基礎理論	7	50	7
	コンピュータシステム	16		14
	技術要素	22		23
	開発技術	5		6
マネジメント系	プロジェクトマネジメント	4	10	4
	サービスマネジメント	6		6
ストラテジ系	システム戦略	6	20	6
	経営戦略	7		6
	企業と法務	7		8
合計		80	80	80

この試験では、新傾向問題といえる新しいテーマの問題、それ以外の新作問題がそれぞれ15問前後出題されてきましたが、前回の試験では新傾向の問題が多く出題されました。今回の試験では、新傾向の問題が前回より5問少ない20問（他種別の既出問題3問含む）、既出のテーマについての新作問題は前回より4問多い12問という構成になっています。過去問題やその改題については、応用情報技術者試験の問題が前回より2問多い35問、他の種別の問題が前回より1問減って13問という構成でした。他の種別の過去問題としては、プロジェクトマネージャ（PM）、情報処理安全確保支援士（SC）、ネットワークスペシャリスト（NW）、基本情報技術者（FE）から各2問、ITサービスマネージャ（SM）、エンベデッドシステムスペシャリスト（ES）、システムアーキテクト（SA）、システム監査技術者（AU）、情報セキュリティマネジメント（SG）から各1問出題されました。また、過去3年間の応用情報技術者試験の問題としては、令和6年度の春期から5問、5年度は春期から3問、秋期から2問、4年度は春期、秋期から各2問出題されました。それ以前は、令和3年度の春期が1問、秋期が2問、元年度の秋期が3問、平成29年度春期から3問、24年秋期から2問、21年度秋期から2問、その他、各年度から1問ずつ、計8問出題されています。

問題の難易度については、高度試験の午前IIレベルのやや難しい問題が前回から3問減って15問、基本情報技術者試験レベルのやや易しい問題が前回から5問増えて17問、ITパスポート試験レベルの易しい問題も1問出題されています。ただし、前回の午前試験は、この試験開始以来最も難しいものでした

から、今回の午前試験も例年よりも難しかったと考えます。例年の講評では、受験者の学習状況によって、感じた難易度は異なるとしていますが、今回の試験も前回同様、ほぼ全ての受験者が難しいと感じたのではないかと思います。

午後試験の問題については、必須問題である問1の情報セキュリティ分野の問題と、選択問題である問2~11の10問から4問を選択し、合計5問の問題に解答します。そして、選択した問題がそれぞれ20点満点で採点され、100点満点中60点以上が合格の条件です。難易度については、合格のための一つの目安である7割程度の得点を目指すという観点で考えると、標準的であったと考えます。

■午前試験の講評

午前試験に出題された新傾向問題は、前述のとおり20問でしたが、具体的な内容は次のとおりです。内訳は、テクノロジ系が17問、マネジメント系が1問、ストラテジ系が7問です。

問	テーマ
7	OSSとして公開されているプログラム言語 Scala の特徴
10	モーターの回転数の計算
17	スレッドセーフの説明
20	LEDの消費電力の割合の計算
21	スイッチが押された状態に変化したことを検出する論理式
24	三本線のアイコンを選択するとメニューが表示されるもの
26	BASE特性を満たすNoSQLデータベースシステム
29	トランザクションの同時実行性を高める仕組み
42	CSPMの説明
46	ソフトウェアの利用者を役割ごとに描いた仮想の人物
49	プログレッシブWebアプリの説明
50	著作者人格権を行使しない記載をして発生を防ぐ問題
52	タックマンモデルでメンバーが意見を主張し合う段階
55	インシデントの発生確率の算出に使用できる技法
57	液体冷却の方法の中で液浸冷却の説明に該当するもの
58	システム監査で使用される用語の説明
60	コントロールの視点から検証・評価する項目
63	データ分析手法のアソシエーション分析の説明
71	生産事業所のシステムでMESが運用される層
80	労働施策総合推進法に関する記述

前回と今回の午前試験について、中分類ごとに出題数を集計すると次のようになりますが、大きな変化はありません。

分野	大分類	中分類	R7秋 出題数	分野別 出題数	R7春 出題数
テクノロジ系	基礎理論	基礎理論	7	4	50
		アルゴリズムとプログラミング		3	
	コンピュータシステム	コンピュータ構成要素	16	3	14
		システム構成要素		4	
		ソフトウェア		5	
		ハードウェア		4	
	技術要素	ユーザーインターフェース	22	1	23
		情報メディア		1	
		データベース		4	
		ネットワーク		6	
		セキュリティ		10	
	開発技術	システム開発技術	5	3	6
		ソフトウェア開発管理技術		2	
マネジメント系	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメント	4	4	10
	サービスマネジメント	サービスマネジメント	6	3	
		システム監査		3	3
ストラテジ系	システム戦略	システム戦略	6	3	6
		システム企画		3	
	経営戦略	経営戦略マネジメント	7	4	
		技術戦略マネジメント		0	6
		ビジネスインダストリ		3	
	企業と法務	企業活動	7	4	8
		法務		3	
合計			80	80	80

■午後試験の講評

最近の午後試験の傾向として、問題文の量が多くなっていることが挙げられます。以前は、4ページの問題が標準でしたが、最近は5ページの問題が標準になります。今回の試験では、4ページの問題が2問、5ページの問題が8問、6ページの問題が1問という構成でした。一方、以前は多かった40字以内というような文字数の多い記述を求める設問が減り、20字や10字という記述を求める設問が多くなっています。また、今回の試験では、「本文中の字句を用いて」という条件が付いた設問が多く、記述方法に迷う設問も減っています。なお、それぞれの問題のテーマは次のとおりです。

問	出題分野	テーマ	分類	選択
1	情報セキュリティ	企業グループのセキュリティ対策	T	必須
2	経営戦略	スポーツウェアメーカーの事業領域拡大戦略	S	
3	プログラミング	二つの列の最長共通部分列 (Longest Common Subsequence) の長さを求めるアルゴリズム	T	
4	システムアーキテクチャ	エッジコンピューティング	T	
5	ネットワーク	クラウドサービスへの移行	T	
6	データベース	受講管理システムの改修	T	
7	組込みシステム開発	猫の自動給餌・健康監視システム	T	
8	情報システム開発	モバイルオーダーシステムの画面設計	T	
9	プロジェクトマネジメント	ソフトウェア開発モデルが混在するプロジェクトマネジメント	M	
10	サービスマネジメント	社内手続を扱うサービスデスク	M	
11	システム監査	情報システムのアクセス管理状況の点検	M	

※ 分類 S : ストラテジ系, T : テクノロジ系, M : マネジメント系

(問1 必須問題)

問1 企業グループのセキュリティ対策 (情報セキュリティ)

産業機器を製造する企業グループの情報システムを題材として、セキュリティ関連の用語と名称、サプライチェーン攻撃対策の観点からの子会社のセキュリティ対策などについて問われました。用語と名称については、いずれも午前試験に出題される基本的なもので、ほとんどが選択式の問題でした。そして、

子会社のセキュリティ対策については、選択式の設問が一つ、30字程度の記述が求められる設問が二つありましたが、いずれも問題文をよく読めば解答できる内容でした。全体としての難易度は標準的であったと考えます。

(問2~11 から 4 問選択)

問2 スポーツウェアメーカーの事業領域拡大戦略 (経営戦略)

スポーツウェアメーカーの事業領域拡大戦略の策定を題材にした問題でした。本文中でバリューチェーン分析と VRIO 分析について触れられていましたが、こうした分析手法に関する知識ではなく、分析結果などの本文の説明を基にして、新市場への参入のための検討内容、ブランド展開案について問われました。設問は、記述式が中心で、45字以内という長い記述を求めるものもありましたが、本文中の字句を使って記述できたので、解答はしやすかったと思います。全体的な難易度としては、標準的であったと考えます。

問3 二つの列の最長共通部分列 (Longest Common Subsequence) の長さを求めるアルゴリズム (プログラミング)

動的計画法によって、二つの列の最長共通部分列の長さを求めるアルゴリズムの問題です。具体例による手順のトレース、プログラム中の空欄、計算量と定番の形式でしたが、プログラムのアルゴリズムは単純なものでした。アルゴリズムの基になる動的計画法とは、複雑な問題を部分問題に分解し、それらの解を利用してことで、元の複雑な問題を解く方法です。具体的な手順は問題文に説明されていますが、この手順が理解できたかどうかがポイントでした。難易度としては、標準的であったと考えます。

問4 エッジコンピューティング (システムアーキテクチャ)

サッカー教室を運営するスポーツクラブの練習試合動画配信システムのプロトタイプ開発を題材に、CPU やインターフェースなどの名称、動画のデータ量、消費電力、エッジコンピューティングを利用する理由などが問われました。テーマのエッジコンピューティングについて問う設問は一つだけで、全体としては、機器の名称や特徴などの知識、データ量などの計算といったこの分野の問題の標準的な構成でした。計算問題は、計算力が求められましたが、他の設問は標準的でしたから、全体としての難易度は標準的であったと考えます。

問5 クラウドサービスへの移行（ネットワーク）

オフィス機器販売会社のサーバの、クラウドサービスへの移行を題材に、デフォルトゲートウェイ、オープシリレー、フィルタリングルール、アドレス変換、L3SWの経路表などについて問われました。一部知識を問う設問もありましたが、その他の設問は、問題に示されたネットワーク構成図中のパケットの流れが理解できたかどうかがポイントになったと思います。例年のような難易度の高い設問はありませんでしたから、全体的な難易度としては、標準的であったと考えます。

問6 受講管理システムの改修（データベース）

オンライン教育サービスを提供する企業の受講管理システムの改修を題材に、定番のE-R図、SQL文について問われました。SQL文については、SELECT文の他に、テーブルの作成、変更を行うCREATE TABLE文、ALTER TABLE文についても問われました。また、エンティティのサブタイプ化についても問われています。いずれの設問も標準的なもので、全体的な難易度としても、標準的であったと考えます。

問7 猫の自動給餌・健康監視システム（組込みシステム開発）

自動給餌機、スマート首輪、スマホアプリから構成される猫の自動給餌・健康管理システムを題材に、健康監視結果の判定、通信ができなかった原因、録画データ量、ステッピングモーターに与えるパルス数、タスク間の通知、食べた餌の量の算出方法、餌タンクが空であることの判定の条件などについて問われました。ハードウェアの知識はほとんど必要なく、本文をよく読めば解答できる例年どおりの問題でしたから、全体的な難易度としては、この分野の問題として標準的であったと考えます。

問8 モバイルオーダーシステムの画面設計（情報システム開発）

カフェ運営会社が新たに構築するスマホを利用したモバイルオーダーシステムの画面設計を題材に、UIコンポーネント、正規表現、画面設計、SQLインジェクション対策などについて問われました。アプリ開発に携わっていない人は、問題のテーマを見て選択を避けたかもしれません、アプリ特有の内容は少なく、情報システム開発に関する一般的な知識で解答できる内容がほとんどでした。正規表現についても、問題文をよく読めば解答できる内容で、全体的な難易度としては、標準的であったと考えます。

問9 ソフトウェア開発モデルが混在するプロジェクトのマネジメント（プロジェクトマネジメント）

電気機器メーカーの工場買収に伴う二つのソフトウェア開発プロジェクトを題材に、アジャイル開発とEVMについて問われました。知識を中心に問われましたが、いずれも午前試験レベルの内容でした。また、本文の記述内容を基に解答する記述問題は、いずれも「本文中の字句を用いて」という条件があり、記述のしかたに迷うことはなかったと思います。全体的な難易度は、標準的であったと考えます。

問10 社内手続を扱うサービスデスク（サービスマネジメント）

通信会社が社内手続とそのサポートのために提供するポータルサイトと、サービスデスクを題材に、SLA、サービスデスクの対応手順、FAQのデータベースの運用などについて問われました。記述式の問題が中心で40字以内という長い記述を求めるものが一つだけありましたが、その他は10字程度の用語などを問うもので、解答しやすかったです。全体的な難易度としては標準的であったと考えます。

問11 情報システムのアクセス管理状況の点検に関する監査（システム監査）

グループ企業のアクセス管理状況の点検の実効性の監査を題材に、問題の事例に沿った監査要点のポイントについて問われました。目新しさはありませんが、グループ会社や業務委託先も含めた点検という点で若干複雑に感じたかもしれません。設問構成は例年どおりで、記述式が中心で設問数は多いものの、いずれも10字程度の記述を求めるもので、本文中から抜き出せば解答できるものでした。この分野の問題としては、難易度は標準的であったと考えます。

■次回の試験に向けて（※次回からはCBT化に伴い科目名が変更になります）

IPAからの発表によれば、令和8年度から、この試験は、年2回のペーパー方式から、一定期間内に複数回実施されるCBT（Computer Based Testing）方式に移行される予定です。それに伴い、これまでの午前試験は科目A試験、午後試験は科目B試験という名称に変更されました。ただし、それぞれの試験で問われる知識・技能の範囲や、出題形式（多肢選択式・記述式・論述式）、出題数及び試験時間も同様に変更はありません。次に、これまで実施してきた午前試験、午後試験の内容を基に、次回の科目A、科目B試験への取り組み方について記述します。

(1)科目 A(午前)試験

新作問題が毎回出題されますし、表現を調整して選択肢の順番を変えるような改題も増えていますから、正解の暗記だけでは科目 A 試験をクリアすることは難しいでしょう。シラバスに沿ったテキストや専門書などを利用して試験範囲を一通り学習し、その後、問題演習を行って試験に備えるという一般的な学習スタイルが理想ですが、そのような時間が取れないという方も多いのではないかでしょうか。そのような方には、過去問題を教材とした学習が効果的です。試験に合格するという目的だけからすると、試験範囲で重要なところは、試験問題としてよく出題されるところだからです。また、広い試験範囲の内容を漫然と学習するのではなく、問題から学習範囲を絞り込むことによって、集中して学習することができます。ただし、過去問題に取り組んで正解すれば終わりということではなく、正解以外の選択肢が誤りである理由や、各選択肢の用語の意味まで調べて知識として身に付けるようにしなければなりません。このとき、年度別に過去問題に取り組むのではなく、分野別にまとめて取り組み、問題を教材として関連知識まで学習すると効果的です。そうすることで、過去に出題されたことのあるテーマの新作問題にも対応可能になります。新傾向問題の多くは、正解以外の選択肢が、既出問題で問われた用語や記述になっていますから、既出問題に正解できる知識があれば、消去法によって正解を導くこともできるようになります。なお、弊社ではこうした学習のための教材として、分野別に学習効果の高い過去問題を選び、知識を体系的に整理できるよう配慮した「高度科目 A・1・応用情報 科目 A 試験対策書」という書籍を用意しておりますので、ぜひご活用ください。

ただし、このような学習方法は、基本情報技術者試験の科目 A 試験合格レベルの知識を体系的に学習済みであることが前提です。基礎となる基本情報技術者試験レベルの体系的な知識がないと、科目 A 試験の問題は何とか正解できるようになっても、科目 B 試験向けの学習でつまずくことになります。科目 A 試験の学習が一通り終わったと思っても、科目 B 試験の問題の演習で知識が不足していると感じている方は、まず、不足している知識を充足することが合格への近道です。基本情報技術者試験レベルの知識が不足していると感じた方は、面倒でも基本情報技術者試験向けのテキストを読んで、基礎力を体系的に身に付けてください。目的は、基礎力を付けることですから、テキストは最新のものでなくてもよいですし、詳細を網羅したものでなくてもよいので、読みやすいものを選びましょう。また、この試験の出題範囲は広く、学習のためにはかなりの時間を必要とします。得意な分野と不得意な分野を交互に学習するなど、学習意欲が継続するよう工夫をしましょう。

(2)科目 B(午後)試験

選択する分野にかかわらず、問題発見能力、抽象化能力、問題解決能力などが、“知識の応用力”として問われます。具体的には、問題文に記述されている事例や、技術や概念の説明などに対する設問について、自分の能力と知識を応用して解答する力が試されます。合格のために必要となる“知識の応用力”を身に付ける学習のためには、まず、過去に出題された問題を知ることが大切です。特に、記述式の設問に対しては、解答が安易すぎたり、難しく考えすぎたりしないように、解答の適切なレベルとはどの程度なのかを正しく理解してください。IPA のホームページには、過去に出題された問題と解答例が掲載されていますから、これらを活用してください。

科目 B 試験では、時間が足りないという感想を多く聞きます。制限時間の中で、過去問題に挑み、時間内で解答できるようにするための問題文の読み方、ヒントや解答の根拠の見いだし方を身に付けるようにしましょう。IPA から発表されている解答例を見ると、制限字数を超えない限り、それほど字数にこだわる必要はないように思われます。また、表現などについても、あまり神経質になる必要はありません。解答のポイントとなるキーワードが記述されていれば、正解になる可能性が高いので、自分が考えついた解答内容を短時間で正しく記述できるように練習しておきましょう。

科目 B 試験では国語力が重要になりますが、それだけでは合格することはできません。その前提として、科目 A 試験レベルの内容に対する正しい理解が必要になります。いくら科目 B 試験の問題演習を繰り返しても、科目 A 試験レベルの正しい理解がないと、解答のポイントを見いだせるようになりません。また、問題文も一定の知識を有していることを前提に記述されているので、正しく読み取ることはできません。こうしたことから、科目 A 試験に向けた学習は、科目 A 試験をクリアするためだけではなく、科目 B 試験をクリアするためにも重要になります。

科目 A 試験の学習を一通り行ってから、科目 B 試験の学習に移る方が多いと思います。科目 B 試験の問題の学習に移っても、問題中に不安なところがあれば、関連する科目 A 試験の問題を利用して知識を確実なものにするようにします。また、毎日、10 問程度の科目 A 試験の問題を取り組み、知識を維持、定着させるようにするとよいでしょう。科目 B 試験向けの学習が進まない原因のほとんどが、科目 A 試験レベルの知識に対する理解不足です。科目 B 試験の学習が進まないと感じたら、その分野を科目 A 試験レベルから復習するようにしましょう。

実際の試験では、馴染みのないテーマ、形式の問題が出題されると、混乱してしまって必要以上に難しく感じてしまいがちです。このような混乱を避けるためには、選択する4分野の他に2分野程度の問題に対処できるように学習しておく必要があります。また、止むを得ず馴染みのないテーマの問題を選択せざるを得ないときには、合格最低基準の6割程度の得点を目指し気楽に取り組むとよいでしょう。この試験の問題は、知識がなくても問題文をよく読めば正解できる設問が多く含まれています。そうした設問で確実に得点できるように、落ち着いて取り組めるようにしておきましょう。そのためには、自分が十分に学習したという自信が大切です。

以上

